

山行報告書

通算山行NO	NO. 147S	報告者	小田 知典
年 月 日	99年3月12日(金曜日)~3月13日(土曜日)		
山 行 名	スキー登山	天 候	無風 快晴
山 名	焼岳北峰 (≒2440m)		
山行の魅力	<b>穂高連峰を眺め下堀沢カールを滑る</b>		
コース及び タイム	12日、下土狩13:00→坂巻温泉17:30(テント泊) ~13日、3:00起床→坂巻温泉発4:30→釜トン入口4:45→下堀沢出合5:30→高天原8:00→焼岳北峰9:30→北峰、南峰コル(滑降)10:15→梓川渡河点12:00		
標 高 差	△S釜トン1315m~T2440m=1125m	体 力 度	1・2・3・4・⑤・6
	▼滑降2400m~梓川1450m=950m	技 術 度	1・2・3・④・5・6
走行距離	~	≒250Km	展 望 度
			1・2・3・4・5・⑥

参 加 者	CL	後藤 隆徳	52	小田、山本はホンモノになってきた、、!
		加藤 秀子	50	-10℃梓川へドボン! 這い上がるとすぐガチガチだった。
		山本 正昭	49	スキー登山は体力が勝負だ、、。
		小田 知典	49	カールを仰ぎ、輝くシュプールに辛さを忘れてしまった。

【第一日目】

この一週間、少しずつ変わっていく天気予報を、遠足を楽しみに待つ子供のように目を凝らしてみていた。週末が悪かった。吾妻連峰のスキー登山は、なかなか行ける所ではないので期待していたが、絶望的だった。

しかし、Bプランとしての北ア焼岳方面の天気が、金曜、土曜と晴れマークに変わってきた。急きょ焼岳スキー登山に変更、12日昼少し前天城峠を越えた。天城路も春の陽光がまぶしくなり、芽吹きの新緑を通ると、ふと、気ままな旅人になってしまう!

下土狩へ急がなくちゃ、白いガウンをまとった穂高連峰が目に見えかぶ。今回で山スキー四回目、焼岳を滑ることを思うと不安もいっぱいあるが、楽しみだ。会長、山本と三人で加藤の待つ富士へ向かうと、駐車場に止めた車のそばに、荷物をいっぱい広げ、いつもの素晴らしい笑顔で待っていた。当然のように、食料を加藤に頼り登山を楽しんでいる。 ナマステ

今回は朝霧、精進湖ラインから上高地へ向かいながら、会長に頂いた焼岳の資料を見ると、下堀沢カールの大斜面が美しくワクワクする。加藤のセーフティドライブのお陰で、坂巻温泉にも明るいうちに到着。旧道トンネル口にテントを張り、スキーにシールをつけ明朝の準備をするが、それ程寒くない。さあ楽しみディナー、シェフが腕を振るったキムチフォンデュ。 ハフ ハフ これはウマイ! 山本は熱い、暑いと汗を流しながらパク付いていた。

ドラエモンのドコデモドアの様に、押すと色々な話が飛びだしてくる、多才な会長が面白く、盛り上がった。乗鞍の剣ヶ峰直下、強風の為登頂を断念せざる得なかった、加藤の話に貰い泣きしてしまった? 「明日早いからそろそろ寝るぞー」梓川のせせらぎに向かい、仁王立ちして見上げる星がとてもきれいだ。 ナマステ (-\_-)

【第二日目】

うつらうつらと3時になってしまった。シュラフを丸め朝食の準備をするが、会長の手際よさ

を学ばねばと何時も思う。キムチリゾットをおかわりする。テント撤収もテキパキ進み、ゴミひとつ残さず出発。釜トン入口近くに駐車し、スキーをザックにくくりつけ出発。釜トンは暗く、所々生ぬるい水が流れている。凍っている部分もあり、加藤のキレイな声が、誰もいないトンネルに響き渡る。釜トン出口の防雪シートをくぐると、梓川のせせらぎの向こうは雪山だった。

そんなに寒さは感じないが-10℃、会長がまず梓川の狭くなってる所を渡る。「ちょっと待て、真ん中の石が滑るからスキーを先にこっちへ渡せッ」とその時、もう加藤の足は真ん中の石に伸びていた。「ギャアー」一瞬だった。加藤の黄金の足は、川にドブプリ浸かってた。「早く上がって靴を脱げッ」 タオルで拭いてるうちに、裾はもうバリバリに凍ってる。指の感触がないと言う、辛いが何もしてあげられない。頑張ってシール歩行で下堀沢出合に着く。

ここから急斜面の樹林をツボ足でラッセルするが、風も無く、だんだん暑くなる。脱いだフリースの背中がすぐ凍ってしまった。スキーを履き、白樺林の緩やかな尾根を登る。私は、この二週間ばかり下痢気味で、今ひとつ力が出ないが、マイペースで行く。上高地が眼下に見え、そこから穂高の山々が、真っ青な空に大きくそそり立っている。後ろには、霞沢岳が裾を広げている。とにかく素晴らしい！ ヨーシ、頑張るぞ、、。平坦で疎らな林を抜けると、噴煙をあげる焼岳が、大きく白い姿を表した。雄大なスロープ、あれが下堀沢カールの大斜面か、、、ここを滑るのか　ゾーッ

スキーを担ぎ、アイゼン、ピッケルでカールをダイレクトに登る。加藤は会長にぴったり着いていく、凄いパワーだ。北峰、南峰のコルでシールを外しながら待ってくれる。

全員で北峰に向かう、ガスの臭いが鼻につく。白い火山ドームは、岩がもろかった。30分で着いた頂上は、無風快晴、360度の大ロケーション。目の前に、穂高連峰から槍ヶ岳、奥深く三俣蓮華、薬師岳、北アルプスの白い峰々が広がり、笠ヶ岳、白山、乗鞍岳、、この素晴らしい展望をカミさんや息子に見せてあげたい！

コルに戻り、急斜面を見下ろし、山本とシールで滑ろうかと話してるうちに、会長と加藤が滑降開始だ。その後ろ姿を見送る二人の青年は、「ヨオーシ、シールを外して滑ろう、、」と果敢に大斜面にチャレンジ！滑り出しが少し怖かったが、これは面白い！自分で信じられない程快適だ！会長が待ってる所まで一気に滑り、振り返るとシュプールが光って見える。

途中から下堀沢に入り滑降する、あまり良い雪ではないと思うが、満足できた。雪面に黒い石ころが多くなってきたが、会長は石の間を遙か下迄降りていた。「ゴオーツ、ゴロゴロゴロツ」と音を立てて、いっぱい石が落ちてくる。焼岳の沢崩れだ。三人でスキーを担ぎツボ足下降にする。(加藤はシリセード) この辺から滑ろうかって時、右手にある筈のストックが無い！ストラップが外れて手首から落ちたようだ。少し登り返して探してみるが、諦めた。

残った一本のストックを長くして、右と左に突き分けながら滑ってみるが、なかなか上手くいかない。(;-;)

会長が待つ所まで行き、スキーを担ぎピッケルを手に三人の後を追う。スキーブーツは歩きにくい。「ストックをもう一本ストックするべきだった」と言っても、笑ってくれる三人は、滑って行っちゃった。今朝梓川を渡った所で、皆待ちくたびれていた。45分遅れだった、スキーは早いや、、！ 上高地も着実に春が近づいて、雪解けが進み、川の姿を現している。





「加藤、気を付けろよッ」 私達は、川の真ん中に石がある所を、飛び石で渡った。加藤は、乙女チックに、雪がこんもり太鼓橋のように積もった所を渡ろうとした。「バシヤア、ドボオン」両足しっかり没水！ 私達はあまり驚かなかった。この事は、加藤の名誉の為にも話すのは止そうと思う、、、。

釜トンネルを抜け車に到着、ブーツを脱いで「焼岳スキー登山」パッションな山行は終わった。スキー登山は厳しいが面白い、クセになりそうだ。しかし、バージンスノーは会長に譲ろう。乗鞍高原で温泉につかり、露天風呂から見上げた乗鞍岳、穏やかに白く聳えてる。

感無量！ ナマステ

帰路、甲府に寄り「すずめ」にて、岩井さん、そして清水さんが駆けつけてくれて交流会、笑、々、々 楽しいひと時でした。20時30分清水さんと「また山の麓で会おうね」と握手を交わし、富士経由で下土狩22時35分「ありがとう御座いました、また出掛けて来ます」天城峠は低かった。下田着は14日0時5分でした。 タダイマ、、 (^\_^)

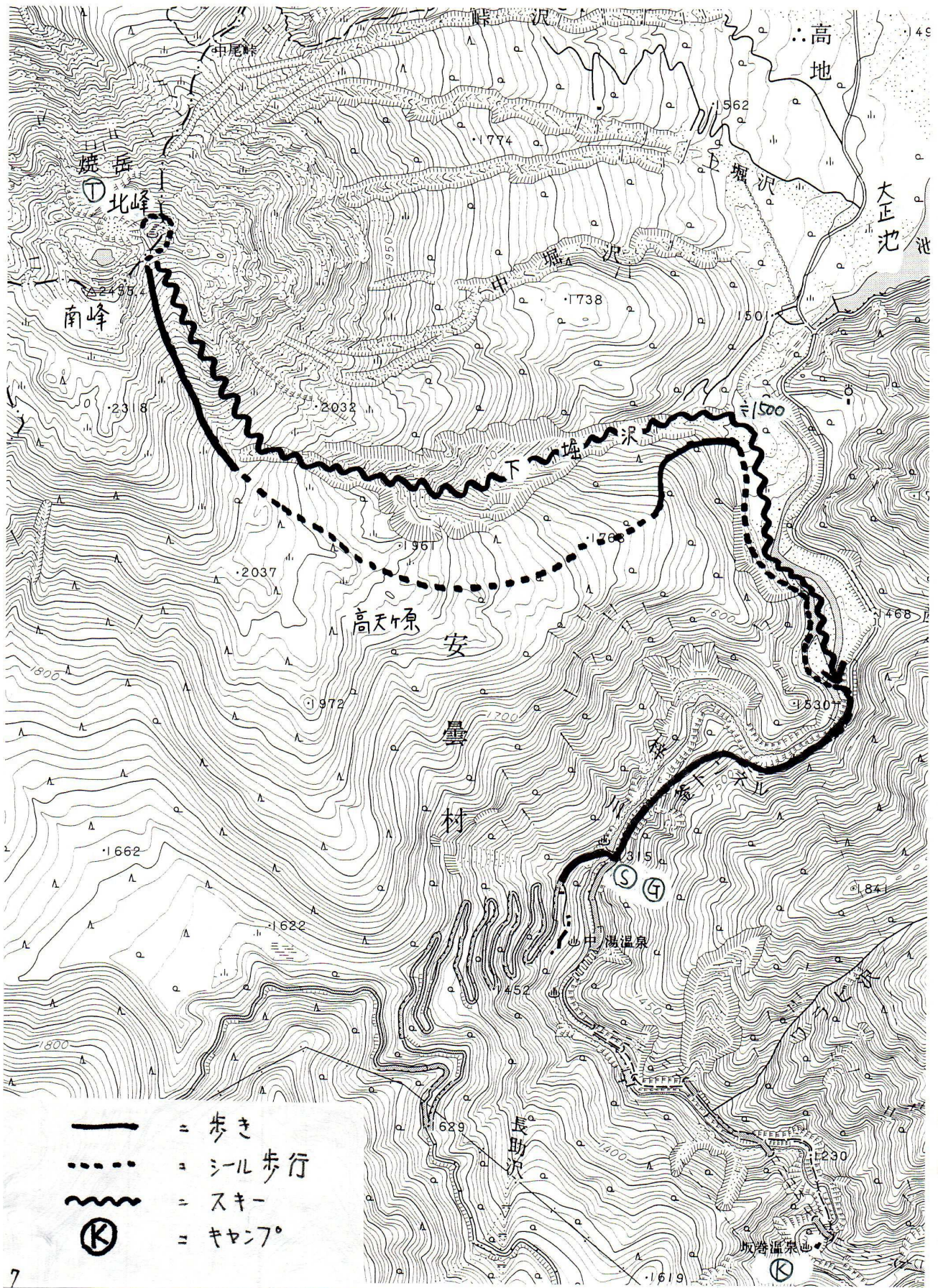
- (1) 穂高連峰全体に雪が少ないようだった、岳沢は殆ど無かった。
- (2) 下堀沢の沢崩れがひどい、雪が解けるともっと多くなるのかも知れない。
- (3) 下堀沢下部で、登ってくるスキーヤー一人に会う。「早いですね、もう頂上へ行って来ました？」にはアゼン、、。

〔CLの一言〕

1. 待ての場合突っ込んではいない、甲府で交流の際、清水に「<sup>け</sup>そお言えば、、、でもあった」が如実に語ってる。
2. 山本、小田は、もう少し体力を付けること、速いことは安全だ。上部のブロックは何時崩れるか分からない。
3. 雪崩ヒモの材質は、もうひと工夫する。
4. スキーはだいぶ上手になってきた、期待、期待！









おわり